

篠田武司先生の定年退職記念最終講義にあたって

産業社会学部長 佐藤 春吉

本日は、篠田先生の退職記念講義、いわゆる「最終講義」です。先生が長い教育と研究の人生を区切る記念の講義をされるということで、通常の講義とはちょっと違っていています。先生のこれまでのご研究や教育活動に携わってこられたことを含めて、皆さんにぜひ伝えたいことを語っていただき、また先生の、ご研究を紹介していただき、若い方々に問題意識を引き継いでもらおうという大学の伝統になっている講義です。いつもの講義と様子が違うかと思いますが、どうかしっかりと受け止めて、これからお話いただく篠田先生の講義を聴いていただきたいと思います。

私は現在、学部長を仰せつかっておりますが、篠田先生も学部長を歴任され、その時、私は副学部長で仕事をさせていただき、長いおつきあいをさせていただきました。篠田先生は今後も教壇に立たれると思いますが、今日は一つの締めくくりの講義をしていただきます。先生には本当に感謝を申し上げたいと思います。先生の多大な力添え、ご尽力によって今日の学部ができたといっても過言ではない、そういう大きな仕事を篠田先生はしてこられました。

簡単ではございますが、ご略歴等をご紹介しますと思います。先生は1945年、岐阜に生まれ、そこでお育ちになり、名古屋大学をご卒業の後、名古屋大学経済学研究科にお進みになり、岐阜大学工業短期大学部にお勤めの後、1983年、立命館大学産業社会学部に赴任されました。その時は助教授として赴任され、90年に教授になられた後、今日まで学部づくりでも多大なご貢献をされ、また研究教育の活動でも大きな仕事をしてこられました。大学でのお仕事も非常に目を見張るたくさんの重要な役職をなさっています。現在は副学部長とっておりますが、教学担当の中心役として、当時の学部主事を、97年にお勤めです。その前は学生主事、学生担当の責任者として執行部をお務めになり、調査委員長（今の企画委員長に当りますが）も務められ、99年4月から学部長、研究科長をお務めになられました。大学協議会、全学の教学の最高決定機関の委員を務められ、また、大学の評議員として法人の方の最高協議機関でも委員をお務めになられました。現在は人文科学研究所所長を務めておられます。その他、社会的なさまざまな活動もなさっておられまして、日本科学者会議の雑誌の編集委員、生協理事長も歴任され、現在、応援部顧問をお務めです。学会活動では北ヨーロッパ学会の理事、副会長をお務めです。

篠田先生の研究・教育活動は「市民社会論」と一言で言い表わされます。「市民社会」は日本の戦後の社会科学の研究分野を表現する言葉といってもいいかもしれませんが、日本の社会を、市民を中心としたものにする、そのための社会科学を考える。そういう立場でずっと仕事をしてこられま

した。日本では平田清明先生が、「市民社会論」を、社会科学や経済学の分野で精力的に推進されたわけですが、先生はそのお弟子さんとして仕事を引き継いで、国際的な視野で発展されておられます。スウェーデン、イギリスの研究者との交流、国際的な舞台でのご活躍は先生のお仕事の中でもひととき重要なものでした。最近では、アジアの中国や台湾の研究者たちと、それぞれの市民社会の構造、そこで暮らす人々の生活と精神、社会制度、福祉政策や社会の構造について、精力的に研究され、多くの論文を書かれておられます。産業社会学部として、立命館として、大いに誇りとするご活躍をされておられます。

教育についても熱意を持って取り組んでこられ、先生の豊富な知識をもとにしたお話を情熱的に語ってこられたと思います。先生はご退職後も、国際的な舞台を含めて、日本の学会活動等でも重責を担われ、仕事をお続けになると思いますが、今日は一応、立命館大学産業社会学部の専任の先生としては最終の講義となります。これまでのご経験を踏まえた思いを伝える、熱意ある講義になると思います。皆さんが、その後を引き継ぎ、学問の発展、考え方を市民社会の生活の中に生かしていくということで、ぜひしっかりと受け止めていただければありがたいと思います。簡単ではございますが、ご紹介をさせていただきました。先生、どうもありがとうございました。